

東海地区

学校事務会報

第135号

令和4年3月8日

発行：東海地区公立小中学校事務研究会

<http://toukaijimuken.sakura.ne.jp/>

今年度の各県の研究活動について報告します

三重県公立小中学校事務研究会 研究報告



子どもの豊かな育ちを実現する学校事務

— (年次テーマ)危機管理体制の徹底 —

三重県公立小中学校事務研究会では、「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を研修主題とし研修をおこなっています。4年目となった「第8期中期研修計画」の年次テーマは、昨年度に引き続き「危機管理体制の徹底」としています。コロナ禍により昨年度、研究大会等が実施できなかったため、年次テーマを1年延長することとなりました。今年度も新型コロナウイルスの影響から、5月に実施した第1回研修講座では、参集せず初めてWEBによる動画配信形式でおこないました。研修講座では、「男女共同参画」と「ワーク・ライフ・バランス」について講演があり、それぞれについてわかりやすく説明していただき、社会が変化していく中、一人一人が現在の状況を見つめ調和させていくことの大切さを学びました。また8月の第2回研修講座でも、WEBでの動画配信形式により実施し「残された時間をどう生きるか～子どもの豊かな育ちを実現するために」と題して講演していただきました。東日本大震災時の事例や防災にかかわる様々な内容の中から、学校の防災環境をさらに整えていく必要性と事務職員のかかわりを考える良い機会となりました。さらに令和5年度からスタートする第9期中期研修計画について、研究部から提案をおこないました。今後会員の意見を活かしながら研修計画を策定していく予定です。これからも、会員相互の交流と研修で得た知識が実践に活かせるような研修をすすめていきます。



愛知県公立小中学校事務職員研究会 研究報告

「協働・創造・発信！ チームでつなぐ子どもたちの笑顔」
～教職員や地域の人々とともに子どもたちの笑顔あふれる学校づくりの推進～

愛知県公立小中学校事務職員研究会は、「協働・創造・発信！ チームでつなぐ子どもたちの笑顔」をテーマに、「チームとしての学校づくり」、「地域とともにある学校づくり」、「学校

づくりを推進する共同実施」の三つの重点目標について、実行可能なアプローチの検討により具体的な展開・進展を目指した研究活動を進めてきました。

令和3年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、愛知事務研の活動も様々な制約の中での事業展開となりました。総会をはじめ、県大会、学校事務情報交換会兼市町村代表者会など多くの事業で参集開催を中止することとなりましたが、県大会では「支部・専門部発表」の動画配信、学校事務情報交換会兼市町村代表者会では「講義」と「シンポジウム」の動画配信を行うなど、プラスアルファの工夫を取り入れた事業を行いました。また、役員会や部局会においても、メール協議だけでなく、リモート会議を積極的に導入するなど、集まらなくても継続できる研究会活動の模索を続けています。

【愛知県公立小中学校事務研究大会 報告】

- 1 開催方法 研究集録 及び 発表動画のWEB配信
- 2 配信時期 研究集録：令和3年11月29日（愛知事務研ナレッジサイト掲載）
発表動画：令和3年12月13日～令和4年1月16日
- 3 大会テーマ 「協働・創造・発信！ チームでつなぐ子どもたちの笑顔」
- 4 支部専門部発表

（1）研修企画部担当

テーマ：『専門性を生かし、事務をつかさどる学校事務職員を目指した検討』
－実際的な問題点に目を向けて考える－

シンポジスト：教育研究者・学校事務改善アドバイザー 妹尾 昌俊 氏

コーディネーター：令和2年度愛知事務研 副会長 大野 正親 氏

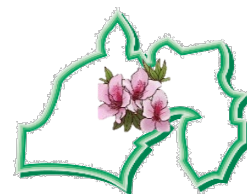
（2）愛日支部担当

テーマ：『戦略的視点での校務運営参画』－学校の軍師になろう－

助言者：愛知教育大学 教育支援専門職養成課程教育ガバナンスコース

教授 風岡 治 氏

静岡県公立小中学校事務職員会 研究報告



「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を目指して

静岡県公立小中学校事務職員会のテーマ「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を具現化するため、専門委員会・特別委員会を設置して、活動を推進しました。それぞれの活動内容は次のとおりです。

【専門委員会の活動】

I 研究推進委員会

- ・研究推進委員会の開催（9/29 ※規模を縮小しZoom開催、11/12、1/14）
- ・県大会の推進（7/29 参集型で開催）

II 広報委員会

- ・研究冊子「ときめき かかわり 未来へつなぐ」への原稿提供
- ・広報誌「はばたき」WEB版の編集・発行
- ・「学校事務研究集録68号」の編集・発行
- ・ホームページの運営の維持・管理

III 学校事務改善委員会（活動休止）

IV リーダー育成委員会（活動休止）

【特別委員会の活動】

I 事務提要編集委員会

- ・事務提要編集委員会の開催（随時）

II グランドデザイン策定委員会

- ・令和4年度中のグランドデザイン発刊を目指し、グランドデザイン策定委員会の開催、アンケートの実施

岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会 研究報告

子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務 ー学校経営をサポートする共同実施の推進ー



岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会では「子どもたちの豊かな育ち」を念頭に置き、教育活動を充実させるための諸条件の整備に心がけるとともに、資質・能力の向上に努め、積極的に校務運営への参画を図っています。

昨年度に引き続き、諸会議は書面開催やリモート開催、研修会等は双方向でのオンライン研修、動画配信などで行なってきましたが、コロナ禍においても積極的に活動を続けることができ、一定の成果を得られたと感じています。

秋季研では活動報告に加え、従来行ってきた「事務の日セミナー」と「共同実施室長等リーダー研修」、講演「GIGAスクール構想後の学校ICT機器の整備と管理」を動画配信しました。自分のタイミングや共同実施のグループの活動に合わせて視聴できること、遠方から出向く必要がないことなどから、これまでの研修会と比べて、動画の視聴という形ではありますが参加者が多く、研修内容はもちろん、開催方法についても会員からの好評を得ました。

また、本年度は岐阜県教育委員会による標準的職務内容の改正がありました。一人職の事務職員も共同学校事務室を組織する一員として、その充実や業務内容に重点をおいた研究に取り組む必要を感じました。今回示された職務の中には、事務職員にとって弱い地域連携等の職務内容も含まれているため、今後の研修内容に工夫が求められます。

新たな研修スタイルの中で、会員の資質・能力の向上を目指し、子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務を目指して、研修や研究活動を行っていきます。

第53回東海地区公立小中学校事務研究大会(三泗大会) 報告



第53回東海地区公立小中学校事務研究大会（三泗大会）

大会テーマ 「学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生」
～ さんしゃいん 子どもたちの未来を輝きでいっぱい～

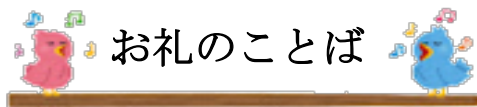
期 日 令和3年11月26日（金）～12月16日（木）

参加者 公立小・中・義務教育学校事務職員、その他学校事務担当職員
教育委員会事務局職員及び教育関係者 ほか

内 容

第1分科会 三重県鈴鹿市	分科会テーマ 「さあ きっと もっと」世界へはばたく子どもたちの 未来へつなぐ学校事務をめざして サブテーマ：共同実施その先に・・・鈴鹿版教育支援を考える
第2分科会 愛知県稲沢市	分科会テーマ 事務改善からつなげる学校運営参画 サブテーマ：「つかさどる」事務職員へのステップアップ
第3分科会 岐阜県関市	分科会テーマ 変えよう働き方！ 広げよう“ええ顔”！ サブテーマ：共同実施を通してできること
第4分科会 静岡県賀茂地区	分科会テーマ 世代交代を見据えた新しい「賀茂はひとつ」の探求 サブテーマ：業務の見直しで子どもたちに“豊かな未来”を

開催方法 集録とWEBによる開催
東海事務研ホームページにアクセスすることで研究集録や分科会の
資料等を閲覧



第53回東海地区公立小中学校事務研究大会三泗大会

実行委員長 麻生 尚見

第53回東海大会三泗大会は、参集型で行うことができず集録発行とWEB掲載という形で開催いたしました。文部科学省をはじめ東海4県、市町教育委員会、校長会等教育関係機関や関連団体の皆様には、ご後援ご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。また多くの事務職員の皆様のご協力により無事終えることができましたことを実行委員会一同、心より感謝申し上げます。

三泗大会は「学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生」をテーマとして掲げ、「さんしゃいん 子どもたちの未来を輝きでいっぱい〜」をサブテーマとしました。サブテーマには、太陽が温かく包み込む日向、その中でキラキラと瞳を輝やかせている子どもたちをイメージし事務職員としてなにができるか考えていこうという想いを込めました。

今回は可能な限り直前まで、感染対策を行った参集型開催の準備を進めてまいりましたが、残念ながら集録発行での大会に変更となりました。しかし、分科会担当の皆様には、オンラインなどの手法を使いながら、集まれないなかでも研究活動をしていただくことで研究の成果を発表していただけたことや、変化に対応したあらたな形での東海大会開催の提案が出来たことを喜ばしく思います。

実行委員会は、盛大に大会を開催し、皆様をおもてなし、お会いできることを楽しみに準備を進めてきました。その思いは叶いませんでしたが、分科会発表担当の皆様方も同じ思いだと存じます。しかし、この貴重な経験は必ず今後活かされるものと信じています。今回は参集できない大会となりましたが、東海事務研究大会は多くの仲間が集い、語りあう大会です。次年度東海大会愛知県大会ではまた多くの仲間と出会い盛大に開催されることを心から願っております。

さいごになりましたが、三泗大会に対して長期にわたりご支援ご協力いただきました東海地区の皆様方、本当にありがとうございました。



静岡県島田市立五和小学校 櫻井 寛之
第3分科会（岐阜県関市）

共同実施6グループそれぞれが研究を行い、発表をする姿に頭が下がりました。それぞれ違うテーマではありますが、どのグループの研究からも「合理化」「平準化」「軽減」といったキーワードが想起され、関市事務職員全員で同じ方向性とビジョンを共有できていることが窺えました。

各校の実情に合わせてバラバラだった学校徴収金事務取扱要領を集め、規則、法的根拠に則った標準的「学校徴収金事務取扱要領」を作るのはさぞかし大変だったかと思います。「以前からそうだったから」と捨て置くこともできたかと思いますが、今ここで標準化を果たしておくことが、未来にもつながる大きな成果になっているように感じました。

今後も学校や事務職員を取り巻く状況は刻々と変化していくかと思いますが、属人化から平準化に転ずる関市なら今後も事務職員全員で同じ方向を向き、えっころしょっと（使い方あってるでしょうか）対応していけるのだろうかと感じました。

冒頭の一本の日本刀を複数人で鍛える写真がイメージぴったりの分科会発表でした。

愛知県額田郡幸田町立幸田小学校 磯貝 洋介
第1分科会（三重県鈴鹿市）

鈴鹿市の共同実施の過去・現在・未来が多くの実践をもとにまとめられ、常に課題解決に向け活動する学校事務職員の姿が伝わる分科会発表でした。

共同実施のあゆみでは、「共同実施完結型（共同実施の担当者が自分の業務として各校の担当業務を行う）」の組織体制を目指すため、事務職員の試行錯誤に加え、鈴鹿市教育委員会との連携を強化することにより、職務担当制の定着と事務改善（システム化・マニュアル化）を進める実践を学ぶことができました。特に、共同実施の中で業務に関わるシステムを作成し改良を重ねるなど、業務改善を推進する意欲的なメンバーの存在は、共同実施組織にとって大きな原動力となり、他の事務職員の成長にも寄与しているのだろうと感じました。

また、教育を取り巻く社会情勢の変化の中、学校事務職員の校務運営参画や教育支援を目指し実施する4つのグループ研修（「学校運営研修」「資質向上研修」「業務効率化研修」「財務研修」）においては、学校事務職員の業務と校務運営・教育支援を上手く関連付けたテーマ設定により、事務職員個々の資質・能力の向上とともに、「教育支援につながる共同実施・学校事務」の実現につながる実践であると感じました。

実践から課題を見つけ、課題解決に向けた実践を積み重ねながら進化（モデルチェンジ）を続ける、鈴鹿市の共同実施を感じられる分科会でした。

岐阜県海津市立日新中学校 小川 茂樹
第2分科会（愛知県稲沢市）

東海地区公立小中学校事務研究会三四大会を心待ちにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため残念ながら資料開催となりました。これで2年連続東海大会が参集開催できず、横のつながりを深めてきた東海4県の皆さまにお会いできないことは大変寂しく、残念に思っています。そのような状況の中でも、各分科会担当地区の皆さまは研究を深め、私たちのこれからの職務にいくつかのヒント、アイデアを与えていただける興味深い内容ばかりでした。

その中でも第2分科会（愛知県稲沢市）では、本市でも毎年のように課題となる「学校事務職員の学校運営への参画」についての研究であり、共同実施についても本来の役割を思い出させてくれる内容でした。また、課題解決方法や「稲沢学校運営参画モデル」「共同学校事務室運営マニュアル」はとても参考になり、本市でも作成しなくてはならないマニュアルだと気づかされました。

来年度の東海大会が、再び日向の場所となり参集して開催できることを期待しています。

三重県亀山市立関小学校 伊藤 幸佑
第4分科会（静岡県賀茂地区）

静岡支部賀茂教育研究会事務研修部は、若年層への世代交代が喫緊の課題となる中、個のスキルアップや組織力向上のために「事務の標準化」「個々の資質向上」「業務改善」の3つの目標を設定し、「業務改善班」「業務標準班」「教員支援班」の3班に分かれて研究に取り組んでいます。

業務改善班は、文書受付事務や非常勤職員の情報管理・確認に関する業務改善について提案をしています。現状の事務処理を見直すことは、大変労力を要することだと思いましたが、結果として円滑な事務処理に繋がっており参考になる実践であると感じました。

業務標準班は、手当認定資料の見直しや旅費事務、事務引継ぎの標準化について提案をしています。三重支部においても世代間継承が課題となる中で、異動や経験年数での格差を軽減し正確な事務処理を行う取り組みとして事務処理の標準化を進めていく必要があると感じており、参考にしたいと思います。

教員支援班は、教科書事務に焦点を当てた教員支援業務について提案をしています。教員との協働という視点からも実践を進めており、個々の事務職員のスキルアップだけでなく教職員の信頼関係の構築にもつながる実践であると感じました。

全体を通して、どの実践も今後の参考になるとともに、自分自身の刺激にもなりました。本研究で学んだことを活かし、日々の業務に取り組みたいです。



第54回 東海地区公立小中学校事務研究大会 愛知大会

大会テーマ

学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生

分科会

愛知県：学校事務サイコウ論

～校務運営参画を見据えた愛知の学校事務の「再考」と「再構」～

三重県：事務改善からつなげる教育支援について

～財務事務をととした若手学校事務職員による実践事例について～

岐阜県：笑顔でつながる 安心・安全な学校をめざして

わたしたち
～小さな町の学校事務職員ができること～

静岡県：子どもたちの笑顔のために 私たちができること

～協働・支援を通して～



開催日：令和4年11月25日(金)

場 所：蒲郡市民会館

主催：東海地区公立小中学校事務研究会

主管：愛知県公立小中学校事務職員研究会